



「とちもう eye サポートセンター」が立ち上がり、2年目がスタートしました。大学病院眼科医、各市町の保健師や障害福祉課担当者、各学校養護教諭、ハローワーク職員などなど、各関係機関担当者の方々に、「とちもう eye サポートセンター」について少しずつ知っていただけるようになり、様々な方面から本校の支援に関する問い合わせをいただくようになりました。視覚に障害を有するご本人、そしてご家族の方々が地域で安心して生活を送ることができるよう、各関係機関担当者と連携しながらよりよい支援について一緒に考えていこうと思っております。今回は「とちもう eye サポートセンター」が4月から8月までのあいだに取り組んだことについて、いくつかご報告いたします。

Ⅰ 弱視特別支援学級等担当者研修会

4月24日(木)、地域の学校に在籍する視覚障害児童生徒を担当する教職員を対象にした研修会を本校で行いました。当日は10名の先生方が参加してくださいました。「視覚に障害を有する児童生徒への支援について」の講話や、ロービジョン疑似体験から、現在担当している児童生徒の見え方について想像していただいたり、自立活動の内容について検討するきっかけとしていただいたりしました。今後は巡回相談等で訪問した際に、学校生活の様子を参観させてもらう中で、より具体的な支援について、先生方と一緒に考えていければと思っています。



視覚障害教育について



シミュレーションゴーグルを装着しての給食

2 ぱんだサークル(育児学級)

8月21日(木)に第1回ぱんだサークルを実施しました。当日は2名の乳幼児と3名の保護者の方が参加してくださいました。子どもたちは担当教員と一緒に、ふれあい遊びをしたり、楽器や手作り教材などの音を聴いたり触れたり、ボールプールのボールで遊んだりして過ごしました。保護者の皆様は本校理療科教員の体験談を聴いたあと、情報交換会を行いました。育児が大変なときは各地域の支援センターを活用してリフレッシュしていること、現在困っていることなどなど、様々な情報や悩み、不安などを共有することができました。

第2回ぱんだサークルは12月26日(金)に実施予定です!



いい音♪



本校職員の体験談

3 サタデースクール

8月23日(土)、今年度も本校を会場にサタデースクールを開催しました。猛暑の中、3組のご家族が参加されました。3組とも地域の弱視特別支援学級に在籍されている小中学生です。前半は、「触察」をテーマに魚(アジ、ウナギ)の観察を行いました。「たくさん“ひれ”があるんだ!」と発見したり、アジの口から入れた指がエラから出てきて水の流れを理解できたりと実物を触る体験をとおして気づきの機会となったようです。また、後半は「スポーツ」をテーマに、視覚障害スポーツの一つである「SST(サウンドテーブルテニス)」を行いました。初めて体験した参加者もいましたが、楽しく活動できたようです。保護者の方々も情報交換を行いました。

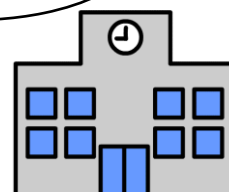
12月13日には第2回サタデースクールを予定しています。たくさんのご参加をお待ちしています!



SST



魚の触察 



4 第27回 全国視覚障害早期教育研究会 栃木大会

8月8日(金)、ライトキューブ宇都宮にて「第27回 全国視覚障害早期教育研究会 栃木大会」を開催しました。当日は全国各地の盲学校等教員50名と本校教職員併せて100名ほどの参加がありました。大会は、午前中に宮城教育大学名誉教授 猪平眞理氏による講演、午後に本校職員による事例発表と、眼科医・地域保育園保育士・ぱんだ教室(乳幼児教育相談室)利用保護者・本校職員によるシンポジウムを行いました。視覚に障害を有する乳幼児とその保護者の方々に対する早期支援の必要性、関係機関同士の連携の重要性など、改めて多くのことを考えることができる機会となりました。



猪平眞理氏による講演



本校職員による事例発表



シンポジウム



会場の様子

～2025年4月から8月の支援について～

ぱんだ教室利用親子(6組):9回

保育園(3園):4回

小学校(5校):7回

中学校(3校):3回

高等学校(2校):2回

成人者相談(8名):10回

通級による指導:4校

